

2016年6月25日 例会：ゴールデンランバー

・伊坂幸太郎について

2000年、『オーデュボンの祈り』が新潮ミステリー倶楽部賞を受賞しデビュー。

仙台在住で、作品の一部は仙台を舞台としている。

島田荘司に影響を受けているとインタビューなどで述べており、島田荘司さんがいなかったら、プロの作家になろうなんて思わなかったような気がします、と語っている。

メディアミックス（映像化、舞台化、漫画化）も多くされており、直近では2015年11月に『グラスホッパー』が映画化されている。

シリーズ、ノンシリーズに関わらず、物語中の小ネタなどに相関関係が見られる場合が多数ある。全て拾うには、刊行順に読む必要がある。

・The Beatles 『Golden Slumbers』

作品は、『Abbey Road』の終盤『The End』へと続く流れの始まりで、このアルバムは事実上The Beatlesの最後から2番目のアルバムとなっている。（ラストアルバムは『Let it Be』）アルバムが作成され始めた当時、The Beatlesは解散寸前でSir Paul McCartneyがバンドをもう一度まとめようとしていた最中だった。

現に、1969年9月26日に『Abbey Road』が発売されてから、1970年5月8日に発売された『Let it Be』まで1年足らずで解散となっている。

・ケネディ暗殺事件について

1963年11月22日金曜日、現地時間12時30分にテキサス州を遊説中であった第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディがダラス市内のパレード中に銃撃され死亡した。

犯人とされたリー・ハーヴェイ・オズワルドは、2日後にダラス警察署の中でジャック・ルビーに撃たれて殺され、裁判の場に立つことはなかった。そして後にウォーレン委員会の公式調査報告でオズワルドの単独犯行として大統領が後方から撃たれたとする結論に、数々の疑惑が出るなど、長年にわたって真相についての議論が続いている。

様々な陰謀論が飛び交ってもおり、その一部では

1. マフィア壊滅作戦に反発したサム・ジアンカーナを中心としたマフィア主犯説
2. 軍産複合体の意を受けた政府主犯説
3. ケネディ兄弟によって汚職を追及されていたリンドン・ジョンソン副大統領が黒幕説などがある。（wikipediaより）

・映画化における音楽分野について

当然ながら本作は、The Beatles『Golden Slumbers』を軸としながら話が進んでいく。

作品中冒頭での『Golden Slumbers』は斉藤和義がカバーしたもので、作品後半では『いたいけな秋』のイントロ部分が使われている。

また、作品主題歌は『幸福な朝食 退屈な夕食』となっており、斉藤和義と伊坂幸太郎のつながりが見られる。(もともと伊坂幸太郎は『幸福な朝食 退屈な夕食』を通勤中に聞いて退職を決意、執筆に専念したという経緯がある。また、このエピソードの他にも『アイネクライネ』という伊坂幸太郎の短編を元に斉藤和義が『ベリーベリーストロング ～アイネクライネ～』を作詞作曲していたりもする)

・伊坂幸太郎『ゴールデンスランバー』

本作は、著者の14作目であり、この作品を一つの境に伊坂幸太郎の作品の変化が見られる。五部構成をとる本作品でにおいて、そのほとんどは第四部の事件にページ数が割かれている。

また、その事件における解決も、明確にはされないまま物語は終了を迎える。果たして、青柳雅春にかわる真犯人は誰なのか？ それは、作品中に埋もれた謎の一つとなっている。

・小説の映像化について

小説を映像化すると、絶対に小説のどこかの部分を削除、改変する必要がある。

これらを行う要因として大きいのが、「時間」という部分がある。小説ではどれだけページ数を割いても、そのページを読むことに対する時間制限はない。

しかし、映像化すると、やはり長くて三時間程度にはまとめなくてはならない。それより長いものにしようとする前・後編やドラマ化→映画化などというまどろっこしい方法になってしまう。

なにが正解か、という点についてここで示すことは到底できないし、するつもりもない。

ただ、映画の『ゴールデンスランバー』から稲井さんがいなくなっても、『ゴールデンスランバー』はやはり『ゴールデンスランバー』であるし、そこが全てではないという事は確かだと思っている。(稲井さんが好きな人もいるだろうし、例会担当者も稲井さんがいないのは少し残念である)

では、何故書籍を読んでもらいたかったかという、全く映画には無い要素が本にあると担当者が思っているからである。

何かというと、第三部『事件から二十年後』だ。この少ないページで思考されている「本当の犯人は誰か？」という点に関して映画では全く表現されていないし、そのクエスチョンに対する明確な解答は書籍でも存在しない。

さて皆さん、本当の犯人は誰だと思えますか？